

愛知学院大学歯学・薬学図書館情報センター

Aichi Gakuin University Dental and Pharmaceutical Library and Information Center

〒464-8650 名古屋市千種区楠元町 1-100 TEL052-751-2561 (内線 1621~1623) <http://www.slib.aichi-gakuin.ac.jp/>

銚薬師堂(医王堂)のこと

皆さんは覚王山日泰寺のことは、よくご存知だと思います。今回は日泰寺ではなく、その北西にある銚薬師堂(薬師堂)のことを紹介しようと思います。愛知学院は薬学部もあり、また仏教系の大学なので、銚薬師堂のご本尊の薬師 (=薬学) 如来 (=仏教) のことを知っていても損は無いですね。



写真1：山門と石造文人像

日泰寺の西門から出て、北に向かって200mくらいぶらぶら歩く(途中にわかれ道があり左折する)と、道から少し引込んだところに山門が見えてきます。(写真1)その両脇に石造りの文人像がひっそりと佇んでいます。衣服や冠の形は韓国ではなく中国のものということが、あとの説明で明らかになります。

門をくぐり本堂に入ると、正面に平安時代後期とも鎌倉時代の作と言われる薬師如来があります。(写真2)

そのご本尊の脇仏として、円空作と言われる日光、月光菩薩、阿弥陀如来、観音菩薩が立っています。また、お堂の西と東の壁沿いに、円空作十二神将が干支の順にならんでいます。

円空と言えば、江戸時代初期の行脚僧で、「円空仏」とも呼ばれる独特の作風を持つ仏像を残したことで有名です。生涯に12万体を彫ったと言われ、現存するものでも5,000体を越します。

銚薬師堂の由来とそれを作った張振甫にも触れておきます。

1644年中国の明朝が倒れ、明朝の皇太子であった張振甫は、医師として日本に亡命してきました。その後、3代将軍家光の命で尾張初代藩主義直に預けられ名古屋に来ますが、藩主の侍医になることは固辞し、必要な時だけ名古屋城へ登城したそうです。彼は漢方医として、食中毒の治療を得意としたそうです。

彼は仲間の鎮魂と供養のために、二代藩主徳川光友の援助を得て、荒れ放題であった上野村陽光院(現、千種区上野の永弘院)の薬師堂を千種区田代町に再建しました。これが今の銚薬師堂です。

楠元キャンパスから程近いところに、800年以上も前に作られた薬師如来と円空仏が同時に見られるという場所があるということは、驚きですね。但し、銚薬師堂は毎月21日(日泰寺の縁日)の午前10時から午後2時までしか開いておらず、本堂内の写真撮影は禁止です。

お知らせ 次号から名称を「図書館だより」→「随筆」とし、不定期刊とします。(文責 事務長)



写真2：本尊と脇仏

<http://masaok15.exblog.jp/9505208/>